

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表： 令和6年3月8日

事業所名 アフタースクールスマイルステーションタ陽丘

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		適切なスペースを設けている。	パーティションなどで区切りながら、適切なスペースを設けている。
	2	職員の配置数は適切である	○		適切な人数で配置している。	余裕ある体制にするため、職員を増員していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		エレベーター、玄関と段差にスロープが設置されている。お手洗いのみ段差があるため、職員が必ず対応できるように人員配置できています。	今後も廊下や階段には物を置かず、バリアフリーにつとめていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		業務改善・PDCAサイクルをおこなっている。	今後も業務改善・PDCAサイクルに努めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の意向をもとに業務改善をおこなっている。	今後も業務改善につなげていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		すまいる通信やホームページに掲載している。	ホームページに掲載していることを、全員の職員に周知をおこなう。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		先日行政書士にプレ実地指導を受け、業務改善をおこなった。	今後も第三者による、外部評価をうける機会を設けていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		義務研修の他、専門家による自主研修をおこなっている。	今後も義務研修の他、専門家による自主研修をおこなっていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、計画を作成している。	放課後等デイサービス計画を作成の折には、アセスメントを適切に行い、ニーズや課題を客観的に分析し、話し合ったうえで、支援に活かしていけるようにする。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化されたアセスメントツールとしては、発達検査の結果を分析して使用している。	今後も標準化されたアセスメントツールを活用し、活用できる能力を磨いていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		話し合いの場を設け、活動プログラムを立案している。	今後もチームで活動プログラムを立案していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		随時保護者の意見を取り入れて更新している。	今後も保護者の意見や子どもの様子を見て、ふさわしい活動プログラムになるよう更新していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇では、普段では支援できないことなどを設定している。	長期休暇にしかおこなえないような特色ある支援を保護者に周知し、実施していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別と集団を組み合わせ、実践形式でコミュニケーションのSSTをおこなっている。	今後も子どもたちの計画に沿って需要があれば、個別や集団を適宜組み合わせ、実践形式のコミュニケーショントレーニングを積極的に取り入れていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		事前に担当を決めて、引継ぎをおこなっている。	毎朝、朝礼を行い、内容や役割分担について確認すると共に、気になることなどあれば共有している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		当日中に情報共有をおこなっている。	今後も、当日中におこなえない場合は、概要のみの他の職員全員に伝え、翌日に話し合いの時間を設けるよう心がけていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援報告書や実績記録を必ず書いている。	日々の記録を必ず取り、今後も検証・改善をおこなっていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを行い、見直しの必要性を職員が理解し、放課後等デイサービス計画を作成している。	今後も定期的にモニタリングを行い、見直しをしていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている。	今後もガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っていく。

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者を中心に参画している。	今後も、児童発達支援管理責任者を中心に、子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画できるようにしていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎がないため、おこなう機会がないが、希望があればおこなっている。	今後も保護者の希望があれば、おこなっていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		該当児童がいないため、おこなっていない。	該当する利用者がいれば、体制を整えておこなっていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保育所や幼稚園との情報共有は今年はなかったが、児童発達支援事業所とは情報共有している。	今後も必要に応じて情報共有し、相互理解に努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	現時点までで該当児童がいないため、未実施。	該当する利用者がいれば、おこなっていく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関の研修を年に数回受けている。	今後も、定期的に専門の方から支援の研修を受ける。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	個別療育であり、ニーズがないため未実施。	保護者の希望がある場合、おこなっていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		天王寺区や生野区の子ども部会、不登校の会に参加している。	今後も天王寺区の子ども部会や生野区の不登校の会に参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○		子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持てるよう心がけている。	日頃は、送迎時や支援報告書、公式LINEや電話等で連絡し、今後も保護者と連携していく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		相談事や支援方法での話し合いを通じて、ペアレント・トレーニング等の支援を行っている。	今後も相談事や支援方法での話し合いを通じて、ペアレント・トレーニング等の支援を行っていく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧に説明を行っている。	特に契約時に運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧に説明を行っており、今後も続けていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		悩み等に対する相談があれば、必要な助言と支援を行っている。	いつでも気軽に相談に乗れるよう、体制を整えていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者同士が集まる講演会と相談会をおこなっている。	今後もイベントがあれば、必ず周知をおこなっていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情対応マニュアルをつくり、迅速かつ適切に対応している。	今後も、苦情対応マニュアルに沿って、記録や報告をしっかりとこない、相手の気持ちに寄り添いながら迅速かつ適切に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		定期的に通信を配信し、いろいろな情報を発信している。	今後も通信を配信して、情報を発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	○		不要な書類は必ず、シュレッター等をおこない、個人情報に注意している。	個人情報の取り扱いについては、今後も細心の注意を払っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡帳の他、公式LINEも導入している。	これからも意思疎通のため、配慮していきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている		○	個別療育であり、ニーズがないため未実施。	今後も必要に応じて、対応していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している。	今後も緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年に2回以上避難訓練、救出その他必要な訓練を行っている。	今後も年に2回以上避難訓練、救出その他必要な訓練を行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	厚生労働省の資料を参考にした研修のほか、大阪市主催の研修会にも参加している。	今後も虐待防止研修や身体拘束研修を定期的に必ず開催していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	現在該当するような利用者がいないが、身体拘束については組織的にマニュアルをつくっており、対応できるよう準備している。	現在、身体拘束をおこなうような利用者がいないため、該当しないが、身体拘束の機会がありそうな場合には保護者の了承を得て、計画に記載をおこなう。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	食事提供はないため、対応をとっていないが緊急時に備えてアレルギー等をモニタリングにて確認している。	現在、食事提供がないため、該当しないが、機会が発生した場合は医師の指示書に基づいて対応をおこなう。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハット事例集はいつでも見れるようファイリングし、共有をおこなっている。	今後もヒヤリハット事例集はいつでも見れるようファイリングし、共有をおこなっていく。